

〔茶道要録^上〕炭之事

蔣飭ガ切韻ニ、炭ハ仙人嚴青ガ造也ト云、字書ニ燒木未ダ灰ナラザル者ト注ス、本肥火用タリ、故ニ見物ヲ次ニシテ、火ノ熾ル事ヲ肝要トスベシ、長サ七寸五分程吉、夫ヨリ五分劣リニ可伐、丸炭、割炭、輪炭有ベシ、輪ノ厚サ一寸程ニスベシ、末流ニハ薄キヲ好ム、不用也、細炭ハ自然ノ燒色ヲ用ユ、白ク染タルヲバ必ず不可用之、細炭ト云テ白炭ト不言、然ルニ當世五色ニ彩シテ用ト也、又竹葉、松笠、茶筌等ヲ炭ニナスアリ、大ニ嫌之、烏府ニ炭ヲ組入ヤウ、各堅ニナスベシ、大ナル炭程上ニ置ベシ、風爐ノ炭ハ長サ四寸ヨリ段々短ク可伐用ナリ、

〔南方錄^三〕炭切やう附組様

炭ノ切様、胴炭、相手炭、長わり、輪炭、品々有といへども、本意は釜の大小に隨て寸を極てよし、何寸何分と定法はなし、爐の間は二炭分の程、休公^利休^干は炭斗に入られしと也、相手に寄炭を加る事あり、其時爲也、風爐にては其心得に不及、

〔貞要集^三〕風爐炭爐炭切様之事

- 一 風爐 胴炭 大四寸 小四寸 二三寸 切口一寸五分
- 一 相手炭 大二寸六分 小三寸迄 切口一寸二分迄
- 一 輪炭 輪厚六分七分 切木口二寸餘 但半月にも
- 一 割炭 二寸より三寸餘迄、但炭大小に寄
- 一 細炭 二寸四五分 三寸四寸迄
- 一 留炭 一寸三四分 一寸七分迄

右風爐炭之切様如斯

爐炭之寸法

- 一 胴炭 大五寸六七分 小六寸 切口無寸法
- 一 輪炭 大八分 小一寸 割小口無寸法、大成吉
- 一 細炭 四寸五分より五寸迄
- 一 中割炭 三寸より四寸二三分迄、色々長短可有之
- 一 留炭 大一寸六七分 小二寸迄
- 一 相手炭 大四寸 小四寸五分 切口無寸法
- 一 大割炭 大二寸五分 小五寸